



夢だより

平成28年1月1日(金)

河内長野市教育委員会
教育長 和田 栄



謹賀新年

“地域の未来に向けて！”

教職員の皆様には、大きな夢と新たな決意を胸に良き年をお迎えになられたこと、心よりお慶び申し上げます。

今年の十干十二支は、丙申（ひのえさる）。“丙”という文字は、植物に喩えれば若葉が太陽の光を受け伸長していく姿、“申”は稲妻の象形で、光が屈折しながら走る姿とされています。昨年度の“乙未（きのとひつじ）”は、地上に出た芽、今年はその芽が大きく成長する年廻りに入ったわけです。先人の知恵の通り、これまで先生方を中心に教育関係者で蒔いた“ふるさとのつながり”の種が芽を出し、ふるさとの優しい日差しを浴びて、大きく伸びていくものと思います。

さて、国の方では、昨年、平成32年度実施が予定されている次期学習指導要領の検討に入りました。チーム学校の実現によるアクティブ・ラーニング(問題解決型授業)への転換、小学校英語等の専科指導、道徳の教科化やいじめ・不登校等の諸課題への対応等々、改善、充実策についての情報がすでに洩れ始めています。平成の教育改革が“質の改革”に踏み込んだと言えるのでしょうか。この大きな潮流は数年後、私たちに意識改革を要求しながら教室の中に流れ込んできます。私には、質の向上に向けて全国の教職員、教育関係者が大きく動き出す姿が目に見えます。そして、その流れの真ん中に立って、船を操縦しているのは、現在の20代30代の若手の先生方なのです。

この流れの教育効果を最大に持っていくために、今、私たちがやらなければならないことは何なのでしょう。それは、その時に質の向上だけに全力を傾けることが出来るように、土俵を整地しておくことであろうと思います。

次の3点は、その際の重要な観点です。

- ① 地域と学校、家庭が子どもの教育に共に責任を持ってかかわることのできるコミュニティスクールの風土
- ② 多様なあり方を相互に認め合い、一人一人がその人らしく活躍できるインクルーシブな文化
- ③ 郷土に誇りを持ち、自己有用感を持ち、自分の言葉で語り、学び輝くことを大事にする生涯学習の意識

五年前に動き始めた『ふるさとのつながりによる学び』は、先生方、また、多くの教育関係者の

皆様の熱い夢と汗によって、今、様々な分野で芽を出し始めています。全国で0.4%と増加傾向を続ける小学校の不登校率が本市では0.18%と半減し、また、全国で0.2%も生起している暴力行為が、0.08%に減少しているのもその一つの現れと言えるでしょう。

「教育は人なり」とは、言い古された言葉です。しかし、子どもたち一人ひとりの育ちは、教育に携わる皆さんの肩に掛かっています。河内長野の教育文化の高さは、先生方をはじめ市民全員の頼もしい力に依るものです。

地域の未来を担う子どもたちの成長は、その地域の人たちの希望です。今年の干支“申”のように、紆余曲折はあっても真正面から長野の教育に情熱を傾けてください。あきらめない人が未来を作るのです。



くろまろくん

©河内長野市 2011